

明日、起こるかもしれない

「地震への備え」出来ていますか？

今からちょうど100年前の1923年（大正12年）9月1日、関東大震災が発生しました。日本列島はどこでも直下型の地震が起こる可能性があります。江別市も例外ではありません。

この未曾有の大災害が発生した9月1日は、震災の教訓を生かし、身近に起こる災害に備えるための「防災の日」です。この機会に、日ごろから出来る災害への備えを改めて確認してみましょう。 [\(詳細\) 危機対策・防災担当 ☎ 381-1407](#)



江別市内の 最大想定震度は「震度7」

市内で震度7の地震が発生した場合、

＜建物全壊＞ 約2,150棟

＜建物半壊＞ 約4,150棟

＜死傷者＞ 約1,390人

の甚大な被害が想定されています。最大震度が想定されているのは「月寒背斜に関する断層」と「野幌丘陵断層帯」による地震です。



江別市内では5年前に震度5強を観測 過去の被害状況を振り返る

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、厚真町で最大震度7を観測しました。北海道全域で停電が発生し、日常生活に大きな影響が出ました。

市内では592棟の建物被害があり、そのうち住家は568棟、人的被害はけが人が5名でした。また、停電の影響で断水となり、約23,500世帯51,000人に影響がありました。

避難所は6箇所開設され、最大避難者は519名でした。



いま一度、確認してみましょう！

日ごろから出来る災害への備え



【食料・飲料を備蓄しよう】

最低3日分、推奨は1週間分！

レトルト食品やカップ麺、飲料水など、賞味期限の長い食料を日ごろから備蓄し、食べた分を買い足すローリングストックで上手に備蓄しましょう。

目安として、最低3日分、できれば1週間分の備蓄を推奨しています。

【停電に備えよう】

寒さへの対策も忘れずに！

懐中電灯やポータブルラジオ、携帯電話を充電するためのモバイルバッテリーや乾電池など、停電時でも使用できる機器を用意しておきましょう。

また、冬季の災害に備え、カセットボンベ式の暖房器具など、暖を取る方法についても確認しておきましょう。

【家具の配置を見直そう】

日ごろから出入口の確認を！

地震の揺れによる家具の転倒・散乱により出入口がふさがれ、逃げ遅れたり怪我をすることがあります。日ごろから出入口付近には家具や荷物を置かず、避難経路を確保しましょう。

また、就寝中に家具の下敷きにならないよう家具の配置にも気を使いましょう。

【地域の絆を深めよう】

困った時は近所で助け合い！

被災時には、自分の力だけでなく、地域の協力（共助）も大切です。日ごろから地域のつながりを意識し、交流を深めていると被災時にも助け合うことができます。

防災訓練を地域単位で行うなど、地域の絆を大切に深めましょう。

【今できる準備をしよう】

普段からの備えが大事！

カセットコンロなどは被災時にも役立ちますが、災害が発生すると入手困難になる可能性があります。そのため、普段から使用できる器具などを災害時に備え準備しておきましょう。

また、被災後の生活のために地震保険の加入なども検討しましょう。

【防災情報の入手方法】

防災情報提供サービスに登録！

あらかじめ「江別市防災情報提供サービス」に登録しておくことで災害が発生した際に、地震情報や断水情報、避難所・給水所の開設情報などを入手できます。

停電時は電話やファクスが使用できなくなるので、携帯電話で確認可能な電子メールでの登録を推奨しています。



9月9日は救急の日

救急車を正しく 利用しましょう

【詳細】消防本部警防課 ☎ 382-5431

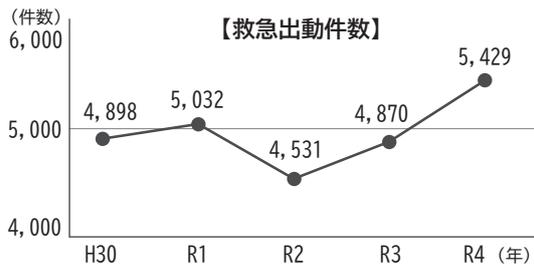
救急車は皆さんの命を救う、大切な資源です。本
当に必要なとしている方の元に1秒でも早く到着でき
るよう、救急車の適正利用にご協力ください。



▼ 救急出動件数は、過去最多

江別市の救急出動件数は、令和4年に過去最高の5,429
件となりました。

救急要請が増加・集中すると、消防署にあるすべての救
急車が出動し、さらに救急要請があると、活動を終えた救
急車が遠くから駆けつけることになり、到着までに時間が
かかります。そうなると、1分1秒を争う生命の危機にあ
る傷病者を待たせてしま
います。



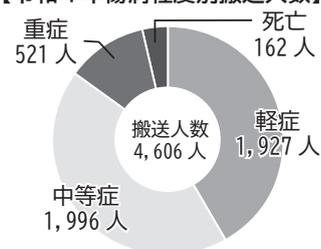
▼ 41.8%は軽症

令和4年に市内で救急搬送された4,606人のうち、
41.8%の1,927人は、入院を要しない軽症の人でした。

出動件数が多くなると、救急車を呼んでも最寄りの救急
車が駆けつけられなくなるだけでなく、医療機関でも救急
患者を受け入れることができなくなり、重症患者の対応が
遅れてしまいます。

「病院へ行く交通手段
がない」「どこの病院に
行けばいいかわからない」
などの理由で救急車を
呼ぶことは絶対にやめ
ましょう。

【令和4年傷病程度別搬送人数】



救急車を呼んだ方がいいか迷った時は、
全国版救急受診アプリ

Q助

(きゅーすけ)



急な病気やけがをした時に、「病院を受診した方が
いいか」、「救急車を呼んだ方がいいか」迷った時に役
立つアプリです。症状を選択していくと、症状の緊急
度が素早く判定され、救急車を呼ぶ目安がわかります。
いざというときのために、事前にアプリをダウンロード
しておきましょう。

診察可能な病院がわからない時は
救急医療情報案内センター
(24時間対応)

▶フリーダイヤル 0120-20-8699
▶携帯電話の場合 011-221-8699



こんな症状の時は、すぐ119番

顔

- ・顔半分が動きにくい、しびれる
- ・笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ・ろれつがまわりにくい
- ・見える範囲が狭くなる
- ・周りが二重に見える



頭

- ・突然の激しい頭痛
- ・突然の高熱
- ・急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- ・突然の激痛
- ・旅行などの後に痛み出した
- ・急な息切れ、呼吸困難
- ・痛む場所が移動する

手・足

- ・突然のしびれ
- ・突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- ・血を吐く
- ・突然の激しい腹痛

その他

- ・意識がない(返事がない)、おかしい(もうろうとしている)
- ・けいれんが止まらない
- ・大量の出血を伴うけが
- ・広範囲のやけど
- ・冷や汗を伴うような強い吐き気
- ・物をのどにつまらせた
- ・交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

